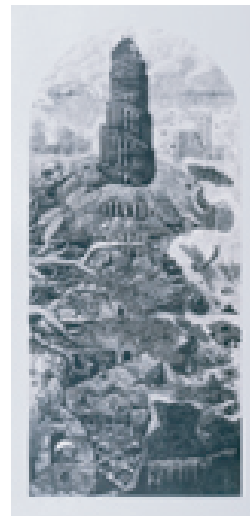


# 眞下美佐男版画コレクションと新収蔵品展

## Prints of Mashimo Misao Collection and New Acquisition

報道用資料  
2006年3月

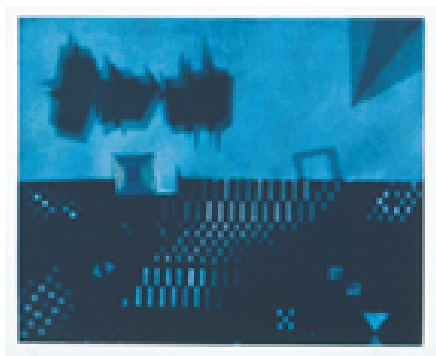
会 期 : 2006年4月8日(土)～5月28日(日)  
 休 館 日 : 月曜日  
 開館時間 : 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
 観 覧 料 : 一般250(150)円 20歳未満・学生150(100)円  
 ( )内は20名以上の団体料金です。  
 65歳以上の方、高校生以下の方、障害者の方は無料です。  
 会 場 : 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館  
 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-8-1 tel. 0467-22-7718  
 主 催 : 神奈川県立近代美術館



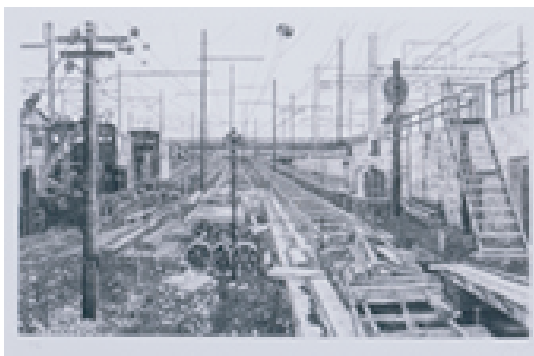
小林敬生《蘇生の刻・バベル》1987年

神奈川県立近代美術館は、このたび、横浜在住の版画収集家として知られた眞下家から、約200点にも及ぶ日本の現代版画の寄贈を受けました。その版画の主な傾向は2つに分けられます。

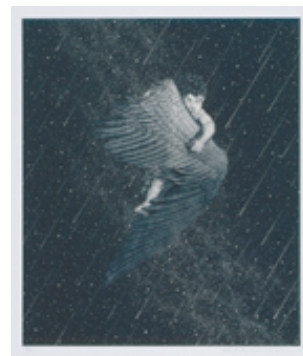
ひとつは、銅版画であり、もうひとつは、木口木版画であります。銅版画は、おもに小林ドンゲ(1927-)や斉藤カオル(1931-)、二見彰一(1937-)、坂東壮一(1937-)といったキャリアを積んだ人たちの作品です。女性をなまめかしく描き出した斉藤カオルのメゾティント、さらに約50点の作品で眞下コレクションの柱となっている二見彰一のエッチングなどは、銅版画部門の注目すべき作品となっています。二見彰一は、音楽のテーマを好んで取り上げ、青や茶の色調をうまく用いたアクアティントによって、二見ならではの抒情的な世界を創造しています。また、木版画の中でも木口木版画という技法の作品をまとめて集めたことも、眞下コレクションの大きな特色のひとつです。板目木版画と異なり、木の切り口である木口を彫って細かい描写を可能にしたのが木口木版画です。1977年に結成された木口木版の作家グループ「鑿の会」で活躍した柄澤齊(1950-)、日和崎尊夫(1941-1992)、山本進(1951-)、栗田政裕(1952-)、小林敬生(1944-)といった人たちの作品が収集されています。例えば柄澤齊による作品、とくに想像力を働かせて過去の芸術家の肖像を描いた肖像シリーズやミステリアスな雰囲気をつたえた「死と変容」のシリーズの中の作品は、木口木版画特有の硬質なイメージを見事に表わしています。今展では、眞下コレクションによる銅版画と木口木版画の中から約65点を精選して、そのコレクションの真髓をお見せしたいと考えております。また、今展では、2005年度に購入、寄贈された新収蔵作品もあわせて紹介します。篠原有司男、西雅秋など11人の芸術家の作品を展示する予定でおります。



二見彰一《バルトークの部屋》1970年



吉田勝彦《汽笛(K操車区の想い出)》1982年



柄澤齊《死と変容1-8 旅》1988年

詳しくは、美術館ホームページに掲載される下記のプレス情報をご覧ください。  
[http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2006r\\_mashimo.pdf](http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/press/2006r_mashimo.pdf)

お問い合わせ先 : 神奈川県立近代美術館 葉山 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1  
 tel.046-875-2800 / fax.046-875-2968 広報担当:忌部 展覧会担当:橋  
<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/>